鉄道車両事業



当社は、1896年の創立以来、一貫して鉄道車両の製造を手掛け、国内外の鉄道事業者に多くの車両を提供してきました。特に、当社の主力製品である新幹線については1964年に開業した0系から最新のN700Sまで、これまでに4,500両以上の新幹線車両を製造し、国内最多の製作数を誇るメーカーとして発展を続けてきました。

今後も、多様なニーズに応えるため、技術開発を推進するとともに安全で品質の高い車両を提供していきます。

常務取締役　鉄道車両本部長　阿彦 雄一

外部環境認識

鉄道をご利用になるお客様の需要をはじめ、受注産業であり納入までのリードタイムが長い鉄道車両の生産量についても、コロナ前の水準に近いところまで回復してきています。一方、多様なサービス設備、省エネルギー、脱炭素など、鉄道に求められるニーズも変化していると考えています。そのため、製造メーカーとしては、新たなニーズを的確に把握し、それに応えていくとともに、技術開発を進め、製品の付加価値を高めていくことが不可欠です。

また、労働人口の減少に伴い、人手不足の課題も顕在化しつつあります。こうした課題に対応するため、当社では、鉄道車両そのものに加え、データを活用した状態監視や、画像解析技術を用いた検査方法の見直し、鉄道車両の省力化・効率化につながる技術開発に取り組んでいます。

今後の戦略

当社は、新幹線電車をはじめ、特急型車両、通勤型車両、事業用車両まで幅広い車種に対応できる強みを生かし、人と環境にやさしい新たな技術の開発、品質向上、低コスト化、業務効率化に磨きをかけることで、社会インフラの充実と発展に幅広く貢献する鉄道車両メーカーを目指します。

国内需要に着実に対応するとともに、2025年10月にはインドネシア・MRTジャカルタ向け車両48両を受注し、2026年5月には台湾向け高速鉄道車両N700STを発送するなど、海外事業においても実績を積み重ねております。今後もこれらの実績を活かし、さらなるアジアの案件にも、採算性を重視しながら積極的に取り組んでいきます。

鉄道の安全・安定輸送を支えるためには、高品質な製品を提供することが最優先です。そのため、図面の3D化、タブレットを活用したマニュアル・図面の閲覧、画像伝送など、デジタル技術を積極的に活用し、作業性の向上や情報の可視化を図ることで、車両品質のさらなる向上に努めます。

また、鉄道車両の設計・製造にとどまらず、3Dデータを活用した設計支援や、画像解析・車上センサを活用した状態監視・保守支援など、鉄道事業者のメンテナンス省力化に貢献するサービスについても検討を進めています。

これからも、付加価値の高い製品・サービスを提供し、社会基盤の充実と発展に幅広く貢献していくことで事業価値を高められるよう取り組んでいきます。



JR東海/JR西日本　N700S新幹線



MRT(ジャカルタ都市高速鉄道南北線向け電車)
credits to PT Mass Rapid Transit Jakarta (Perseroda)



JR東海 385系(量産先行車)